希望という未来へ

あなたが未来に残したいものは何ですか？

震災から１年
私たち一人一人が感じたことや考えたことは違いがあるのかもしれません。
「助け合うって何だろう？」「未来に残したいことは何だろう？」…と、
答えのない問いを自分自身に問いかけながら、私たちは歩んできました。

あの日、あの時をもう一度思い出し、感じたことや考えたことを話し合ってみませんか。
考えて、話し合うことで、見えてくるものが必ずあるはずです。

一人一人がそこから見えてきたものを大切にして後世に伝えていくことが、
希望という未来を創り上げていくことにつながるのではないでしょうか。

たどたどしい歩みでも
想いが伝われば
希望の未来へつながっていく―

災害に強いまちづくり

防災対策を充実させます

震災の経験を踏まえて、平成24年度には次の事項の実現に向けて取り組みます。

住民に迅速で正確な情報を伝達できる通信網を整備します―

本市の通信設備は、防災無線を中心とする応急復旧系と、ＭＣＡ無線（※）を中心とする避難所連絡系と大別されます。現在のＭＣＡ無線はアナログ方式で機器の老朽化が進んでいることから、アナログ方式からデジタル方式への更新を行います。また、避難所の要となる小中学校や保育園などには、新たにデジタルＭＣＡ無線機と発電機を配備します。

これにより、地域の防災拠点となる各公民館と災害対策本部をつなぐ通信網を確保するとともに、人的、物的被害の規模や、地域の被害の様子をできるだけ早く災害対策本部に集中させ、効果的な応急、復旧活動につなげていきます。さらに、この通信網を整備することで、地域住民への迅速で正確な情報伝達を行える環境を整えます。

迅速に対応できる指定避難所を目指します―

避難所は、被災者対策の最前線となります。そのため、毎年総合防災訓練で避難所開設の訓練を実施するとともに、県立高校などと、避難所開設時の協定の締結を進めていきます。また、４月１日から指定避難所ごとに市職員の担当を指定。今後、震度６以上の地震が発生した場合は、地域の皆さんと話し合って避難所を開設し、いざという時に迅速に対応できる指定避難所を目指します。

備蓄品の充実と分散型備蓄を検討します―

本市のように、広大な市域を抱え多くの避難所運営を必要とする場合、物資の備蓄は必要不可欠です。また、今回の大震災のように燃料不足が発生すると、物資の支援はもちろん、支援物資の配布に大きな影響があることが分かりました。

欲しいときに欲しいものが届かないことは、過去の大災害でも同じであり、刻々と変化するニーズの中で支援物資をコントロールすることは非常に難しいことを実感しました。

現在、各公民館や小中学校、高校のほか、各自治会や消防団への毛布配布を行っています。今後は、多くの指定避難所へ配布する輸送のリスクを考え、指定避難所への食料品などの備蓄を検討します。

災害に強いまちを実現する計画づくりに取り組みます―

災害発生時に、被災者を助け、壊れた施設や設備を一日でも早く直すために、市職員が行動する計画が「初動マニュアル」。一方、行動を最小限に抑え、限られた人員、施設や設備、情報などで重要な業務を継続し、迅速に再開する体制や行動計画がＢＣＰ計画（業務継続計画）です。この２つの計画が防災対策の両輪となって、災害の応急、復旧、日常業務の再開をバランスよく進めていくことで災害対応を一日でも早く終息させ、日常業務を再開させることは、災害を原因とした不安の解消につながります。

市では、各対策班や所属ごとにこの２つの計画を策定した上で、より具体的な職員の行動を定め、災害時に実践することができる防災計画づくりに取り組みます。

※MCA方式とは、Multi Channel Access Systemの略。複数の周波数を多数の利用者が効率よく使える業務用無線通信方式の一つ。
混信に強く、クリアな音質、同報（一斉指令）機能、周波数の利用効率が高い、グループ通信機能などの特徴がある。

市政モニターにアンケートを実施

行政に求められているのは「きめ細かい情報力」

市は、未来の白石につなげるために、東日本大震災発生当時の避難行動や教訓などを調査し、これからの貴重な資料として役立てようと、平成23年12月下旬から平成24年上旬にかけて、市政モニターの皆さんを対象にアンケート調査を行いました。

「災害に備えての準備」は、「防災グッズ」「食料の備蓄」「飲料水の備蓄」が「役に立った」と大半の方が回答。「地震直後一番欲しかったものや困ったこと」は、「ガソリン・灯油などの燃料」「電気」「水」「食料」「情報」「電話」の順で、「地震発生からおよそ２週間の情報取得手段」は、「市役所や避難所の掲示板」「広報車」「テレビや新聞」「安心メール」「家族や近所、職場」という意見が寄せられました。

「震災後に備えたもの」は、食料、水（容器）、乾電池、燃料、懐中電灯、ラジオ、カセットコンロ。「災害に備えて市に望むこと」は、「通信手段の確保」「食料などの備蓄」「避難マニュアル」という意見が寄せられました。

「未来への白石市民へのメッセージ」には、「隣近所のコミュニケーションを広げることで、災害が起きても互いに協力し、助け合うことができて、『明るい未来の白石』が見えてくると思います。震災で得た「絆」を大切にして未来へつなげていきましょう」という意見などが寄せられました。

市は、調査結果や市民の皆さんからの声を踏まえて、これからも復旧・復興に向けて全力で取り組んでいきます。

●ホームページＵＲＬ　http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/section/somu/etc/m-a-monitor.html